

川崎平右衛門を世に知らしめる

蔦谷 栄 一 ④6

償いから地域に目

西東京市に居住して40年近くたつ。自宅のすぐ南は武蔵野市、西は小金井市に接する。私もご多分に漏れず、サラリーマン時代、自宅は専ら寝るところでしかなく、地元・地域との関係はきわめて疎遠であった。退職後はその罪滅ぼしに自治会をはじめとして地元や周辺ともご縁をいただきながら、ささやかに活動を広げてきているが、その一つが小金井市にあるNPO現代座に端を発してのボランティアである。

現代座は、その前身が統一劇場であり、統一劇場は山田洋次監督が制作した、岩手県の過疎の村で若者たちが劇団公演を計画して成功させるまでを描く映画『同胞（はらから）』のモデルとなった劇団である。この統一劇場、そして現代座の代表が、脚本家・演出家の木村快氏である。

木村氏とご縁をいただくきっかけになっ

たのが、ブラジル移民についての研究をまとめた木村氏の大著『共生の大地アリアンサ』である。アリアンサはサンパウロ州にあり、日本人移住地としては最大であったが、規則というものは持たずに、協同を柱として発展してきた。このため国策に抵触するところもあつてか、戦後、日系社会で出された『ブラジル・日本人移民史』なる『正史』ではまったく触れられていないそうだ。現代座が1994年にブラジル公演を行った際、「日系子弟のためにアリアンサの正確な歴史を残しておきたい」との話を受けて、ブラジルとの間を実に20数回も往復して仕上げた好著で、「ブラジルに協同の夢を求めた日本人」が、「国の移住政策に逆らつて、自分たちの自治による理想の移住地をつくろうと闘った大正時代の男

達」の記録となっている。

自宅から現代座まで自転車約15分。本屋に頼むよりは、現代座に直接行ったほうが早いということで、事前に連絡をしておきましたところ、木村氏本人が待っていて対応してくださった。いろいろやりとりするうちに、木村氏の核心にある「協同・共生」に対する熱い思いと行動に共感。その木村氏は、同じ地域に住む市民から「地元の話に芝居にしてほしい」との要望を受けて、武蔵野新田開発の立役者である川崎平右衛門を中心にした江戸時代の歴史について、4年にわたつて市民とプロジェクトを組んで勉強会を重ね、合唱構成劇『武蔵野の歌が聞こえる』の脚本をほぼ仕上げたところだとか。これからこの『武蔵野の歌が聞こえる』の公演実現に向けて、集客を主たるねらいとする市民グループによる支援活動を発足させるところだと言う。早速、家内とともに手をあげて、現代座とのかかわりが始まることになった。

川崎平右衛門と出会う

川崎平右衛門をして『武蔵野の歌が聞こえる』について、ここで詳述するスペース

はないが、ポイントだけ簡記しておこう。

18世紀に入って宝永大地震や富士山の噴火等の天災・大災害が相次ぎ、その影響で飢饉が続発。復興事業にともなう幕藩財政の悪化から、8代将軍・徳川吉宗によって享保の改革への取組が開始された。その目玉となったのが武蔵野台地での新田開発であるが、開発は遅々としてすすまず、総責任者の大岡越前守忠相は「世襲の役人に代えて、現場で復興事業に取り組んでいる農民・町人の中から優れた人材を抜擢」するとして、武蔵野新田世話役に任命したのが押立村（現在の府中市押立）の名主であった川崎平右衛門である。

平右衛門は、百姓組合ともいべき仕法をも取り込みながら、助け合う心、協同の精神を尊重し、百姓たちの力を引き出すことによって、見事、新田開発を成功に導いた。平右衛門はその後、木曾三川の治水工事にあたり、さらに石見銀山の再建に当たっている。いずれの地にも平右衛門の功績とその人徳をたたえて、いくつもの石碑等が立てられている。

こうした平右衛門の苦勞と活躍が2時間

ほどの中に凝縮され、流れの要所要所では、そこでのメッセージを、舞台上立つ登場人物たちが合唱する。劇中、心打たれる場面はいくつもあり、平右衛門の思いが全身全霊をもって迫ってくる。

川崎平右衛門顕彰会・研究会立上げ

川崎平右衛門は偉大な業績を残しただけでなく、日本における協同組合の祖とも言われている二宮尊徳や大原幽学よりも、さらに100年も遡って活躍した。

『武蔵野の歌が聞こえる』は2014年に初演されたが、15、16年と続けて公演を行い、この間、JA東京中央会、JA東京むさし、日本労働者協同組合をはじめとして、たくさんの方の協同組合関係者にも見ていただいた。こうした中から、この平右衛門があまりにも世に知られずにいる。もっともっとと広く世に知らしめるべきと考える人たちが集まり始めて、顕彰会を設ける動きとなり、ついには昨年5月に川崎平右衛門顕彰会・研究会を発足させた。

川崎平右衛門を広く世に知らしめていくと同時に、協同による取組みについての関心を高め協同活動を活発化させていくこと

を目的とする。会長は山田俊男（参議院議員）、副会長が大石学（東京学芸大学教授）、須藤正敏（JA東京中央会会長）、永戸祐三（日本労働者協同組合名誉顧問）等となっており、私は事務局長を預かっている。

昨年11月に第1回研究会、今年10月12日に第2回の総会・研究会を参議院会館で予定している。目下、10月の準備と来年の小金井市での開催の調整に時間・労力をとられ、忙しく立ち回っている。関心ある向きは川崎平右衛門顕彰会・研究会にeメール walk@tbz1.com.jp について連絡を。ぶらり武蔵野新田めぐり

まったくの行きがかりで事務局長を務める羽目になってしまったわけであるが、これに関連して①日本における協同と自治の源流を求めて歴史を遡る、②武蔵野新田開発の流れと玉川上水等との関連、に対する興味に捉えられている。たまに時間があれば、川越市をはじめ武蔵野新田に関係した地を訪れ、その博物館や図書館で資料をめぐり、現地をふらふら歩き回るのを楽しみとしている。いずれ①、②についてもご報告できる機会があれば幸いである。